祝　令和４年８月３日（水）　読売新聞掲載（全国版）

リュウキュウアユ観察学習　in 役勝川

THE YOMIURI SHIMBUN
讀賣新聞
2022年(令和4年) 8月3日水曜日

世界自然遺産に2021年に登録された鹿児島県の奄美大島。貴重な固有種が多く生息するこの島で、絶滅危惧種に指定されているリュウキュウアユ❓の保護活動に小学生が取り組んでいる。アユの生態を学び、産卵しやすいように川を整備しながら、希少な生物を守る心だけでなく古里への愛情も育んでいる。

SDGs @スクール

SDGs　エスディージーズと読み、Sustainable Development Goalsという英語の頭文字からとった略称。「持続可能な開発目標」と訳されている。2015年の国連総会で採択され、貧困や飢餓、教育、男女の平等、働きがい、生産消費、生態系の保全など17項目の目標を掲げている。目標の下には、具体策や数値目標などを示した計169のターゲットがある。

鹿児島県奄美市立住用小学校

希少アユの絶滅防げ！

川の整地や水槽で飼育も

役勝川に入ってリュウキュウアユを観察する住用小学校の子どもたち ＝写真はいずれも本田佳子撮影

今回の主な目標

11　住み続けられるまちづくりを

14　海の豊かさを守ろう

15　陸の豊かさも守ろう

Action　川で実地観察

「あそこだ」「いたいた」。森の中を流れる役勝川の中流域で7月9日、奄美市立住用小学校の児童たちが声を上げた。体長約10㌢のリュウキュウアユが、胸びれ近くの金色の模様をきらきらと光に反射させながら泳いでいる。

この日の観察学習には、1年生から6年生までの児童17人が参加した。奄美大島自然保護協議会ヤジ分会の養殖技術者、又野隆誉さん(43)から「深いところにいることが多いから、注意しながら見て」などと説明を受け、ゆっくりと頭から水の中に入る。

水中めがねをうまく着けることが出来ない低学年の児童は、箱の底にガラスがはめ込まれた「箱めがね」を使って川の中をのぞき込んだ。テナガエビやハゼなども見える。毎年参加している6年の新納華穂さん(11)は「今年のアユが一番多い」と喜んだ。

川での観察に先立ち、3年から6年の14人は同小で、又野さんからリュウキュウアユの生態、河川工事や自然災害による増水などで個体数が減少している現状を学んだ。又野さんは「ここにしか生息していない生き物は絶滅すると元に戻せない。今の環境を守ることが本当に大切です」と話した。

飼育しているリュウキュウアユを観察する住用小の子どもたち

Mission　豊富な野生生物

同小の近くには、国内第2の規模のマングローブ群生林や絶滅危惧種のアマミノクロウサギ、固有種のルリカケスなどが生息する森がある。リュウキュウアユが生息する役勝川や住用川も近くを流れる。

豊かな自然に囲まれた地域で、リュウキュウアユはかつては何万匹もいたが、1998年には、役勝川で1500匹程度にまで減ってしまった。山美奈子校長によると、「このままでは絶滅してしまう」という危機感から、2006年に同小の保護活動が始まったという。

児童は総合的な学習の時間にアユについて学び、毎年夏には役勝川で観察し、アユの産卵時期にあたる11月の前には川の整地作業を行う。学校近くのアユの養殖場から譲ってもらったアユを水槽で飼い、世話もしている。

こうした活動が認められ、21年には、野生生物の保護に功績のあった団体や個人に贈られる功労者表彰で文部科学大臣賞を受賞した。

Goal　郷土愛も育む

秋に予定する整地作業では、産卵しやすいよう川底の土を取り除いたり、砂利を耕したりする。児童のほか保護者や地域の人も参加して行われる。

山校長は「リュウキュウアユの地域での知名度は上がってきた。もっと多くの人に知ってもらうのが課題だ」と話す。児童は、観察学習で学んだことを作文にまとめ、地元のラジオで一人ずつ発表するなど活動の場を広げている。

活動を通して、児童の関心も広がっている。7月下旬に沖縄県・西表島に「奄美こども環境調査隊」（奄美市教育委員会主催）として派遣された5年の橋口ゆいさん(10)は「もっと自分たちの活動範囲を広げて、他の川でもアユが生息できるようにしたい」。山校長も「自分たちの活動がSDGsにつながっていると実感し、誇りと郷土愛を持ってほしい」と願っている。

ワード❓ラボ

リュウキュウアユ

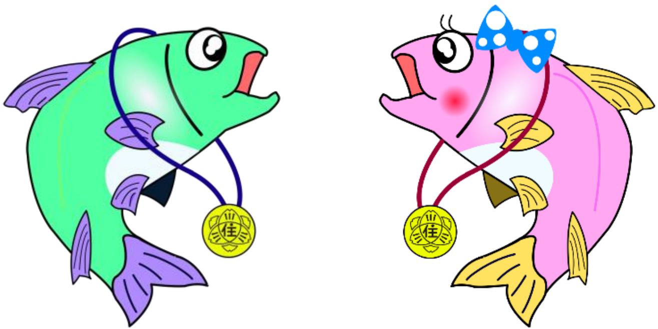
鹿児島県・奄美大島と沖縄県・沖縄本島のみに生息する。環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されている。沖縄では1970年代後半に一度、絶滅したとされる。奄美大島でも全域にいたが、河川工事などの影響で役勝川など一部の川にしか生息していない。本州のアユより小ぶりで、うろこが大きい。

住用小で飼育されているリュウキュウアユ

＊SDGs@スクールは毎月1回（第1水曜日）お届けします。

編集後記　住用小の子どもたちと一緒に川に入った。絶滅危惧種を保護しようと熱心に活動する子どもたちは、金色模様があるアユと同じようにひとりひとりが輝いていた。住用小の校庭には、卒業生が描いたリュウキュウアユのキャラクター「ルキ」と「ユリ」のイラストがある。子どもたちにとって、保護活動が普段の生活の中にしっかりと根付いていることを示している。山校長が話すように、子どもたちが活動を通じて誇りと自信を身につけてほしいと願う。（教育ネットワーク事務局　本田佳子）

令和３年度　卒業制作
「リュウキュウアユのイラスト」



私たちを守ってくれてありがとう
左：ルキ　　右：ユリ

世界自然遺産になった奄美大島もリュウキュウアユが少なくなるなど、生き物たちにとって住みにくくなってきています。自然と共にすごしている私たちにとっては大きな問題です。なぜなら私たち人間も自然の一つだからです

このような時に、私たちにできることは、何でしょうか？

世界自然遺産の中心地である住用に住む私たちだからこそできること、伝えられることがあるように思います。